新型コロナウイルス感染症予防接種について（説明書）

新型コロナウイルス感染症予防接種は、予防接種法に基づく定期予防接種です。この説明書でワクチンの効果や副反応等をご理解いただいた上で、接種の判断をしてください。また、この予診票は接種できるかどうかを決めるのに大切なものですから、接種を受ける方（代筆可）が責任をもって予診票（表面）に詳細な健康状態を記載し、正しい情報を接種する医師へお伝えいただくようお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症とは

新型コロナウイルス（COVID-19）が原因で発症します。感染者からの口や鼻から、咳、くしゃみ、会話等のときに排泄されるウイルスを含む飛沫またはエアロゾルと呼ばれる更に小さな水分を含んだ粒子を吸入したり、皮膚や粘膜の直接的な接触や、タオルや手すりを介して間接的な接触をし、その接触したウイルスが感染者の目や鼻、口に直接的に接触することにより感染します。感染した際の主な症状は、喉の痛み、咳、鼻水・鼻づまり、倦怠感、発熱、筋肉痛などで、通常の風邪と見分けがつきにくく、ウイルスに感染していても無症状の場合もあります。軽症の方は発症後1週間以内に症状が軽快することが多いとされていますが、高齢者や基礎疾患のある方は重症化リスクが高いとされています。

予防には、日頃から健康的な生活習慣を保ち、免疫力を下げないようにすることや、流行期の外出は人込みを避け、マスクを着用し帰宅後はうがい・手洗いを励行することが重要ですが、新型コロナウイルスワクチンを接種することで発症と重症化の予防が期待できます。

ワクチンの特徴と副反応

新型コロナウイルスワクチンは、接種によりスパイクタンパク質（ウイルスがヒトの細胞へ侵入するために必要なタンパク質）に対する中和抗体産生及び細胞性免疫応答が誘導されることで、新型コロナウイルスによる感染症の予防ができると考えられています。

主な副反応は、注射した部分の局所症状（赤み、かゆみ、熱くなる、腫れ、痛み、硬くなる）、発熱、寒気、筋肉痛、疲労感、頭痛等がありますが、通常2～3日のうちに治ります。また、まれに起こる重大な副反応としてショックやアナフィラキシー、ごくまれに心筋炎や心膜炎等の事例も報告されていますので、接種数日以内に胸の痛みや動悸、息切れ、むくみ、手足の力が入りにくい、しびれ等の症状が現れた場合は、速やかに医療機関を受診してください。

接種を受けることができない方

- 明らかに発熱している方（37.5℃以上）
- 重い急性疾患にかかっている方
- 本ワクチンに含まれる成分で過去にアナフィラキシーを起こしたことがある方
- その他、医師が予防接種を受けることが不適当と判断した方

接種を受ける際に医師との相談が必要な方

- 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気等の基礎疾患がある方
- 過去に受けた予防接種で、接種後2日以内に発熱や発疹、じんましんなどのアレルギーを疑う症状がみられた方
- 過去にけいれんを起こしたことがある方
- 過去に免疫不全と診断されたことがある方、近親者に先天性免疫不全の人がいる方
- 本ワクチンに含まれる成分でアレルギーを起こす恐れのある方
- 血小板が少ない方や出血しやすい方

接種後の注意点

- 接種後30分間は急な副反応が起こることがあります。特に、<u>接種後15分以上は接種した医療機関でお待ちいただき、体調に異常を感じた場合は接種した医師へ速やかに連絡をしてください。</u>
- 接種後4週間は副反応の出現に注意しましょう。接種部位の異常な反応や体調の変化を感じた場合や、高熱やけいれん等の症状が現れた場合は、直ちに医師の診察を受けてください。
- 当日はいつもどおりの生活をしても構いませんが、激しい運動や過度の飲酒等は控えてください。
- 接種した部分は清潔に保ち、こすらないようにしてください。なお、当日の入浴は問題ありません。

健康被害救済制度

この予防接種による因果関係が明らかな健康被害が生じた場合は、予防接種法に基づく救済を受けることができます。ワクチンを適正に使用したにもかかわらず、発生した副反応により入院が必要な程の疾病や障害等が生じた場合は、狭山市健康被害調査委員会の調査を経た上で、健康被害の内容や程度に応じて、医療費・医療手当・障害年金・遺族年金・遺族一時金などが支給されます。気になる症状が現れた場合は、接種した医師へご相談ください。